

院内で「ふれあいデー」

名古屋共立病院、体験ブース設置

医療法人偕行会・名古屋共立病院は11月30日、名古屋市中川区の同病院で、イベント「ふれあいデー2025」を開催した。11月14日の「世界糖尿病デー」に



れて、体験する」ことで、病院の役割や医療の重要性を感じてもらおうと院内を開放。医療コスプレやエコー検査、人工呼吸器体験など15種類の医療体験ブースを設置した。

スペシャルステージでは、元中ロドラゴンズ投手で偕行会グループ健康PRアンバサダーの山本昌さんが登壇。「糖尿病ってなに？どうして気をつけるの？」をテーマに、専門医とともに分かりやすく解説し、参加者と交流した。

市内在住の6歳の女児は「病院で働く仕事がいーろと体験できて、楽しかった」と笑顔で話した。名古屋共立病院は「医療をもっと身近に感じてもらい、健康づくりに役立ててほしい。今後も地域との交流を深めていく」としている。

院内を開放し、医療体験ブースを設置した

ちなんで企画。幅広い世代の市民約530人が参加した。市民の健康意識を高める狙い。

医療の現場を「見て、触

